

シリーズ

# 南アルプスを代表する山岳地形の植物群落

## 南アルプス(仙丈ヶ岳等)生物群集保護林

### 設定目的

当保護林区域には、秀麗な山容から「南アルプスの女王」と称される仙丈ヶ岳(三三三三<sup>トク</sup>)や、多くの褶曲と急崖から迫力のある山容の甲斐駒ヶ岳(二、九六六<sup>トク</sup>)など南アルプスを代表する名峰が連なっており、広大な石灰岩が露出した幕岩やカール等の特異な山岳地形・地質が見られます。

この地域に生育する高山植物や天然カラマツ、シラビソ、ヤツガタケトウヒ、ヒメバラモミ等を一体的に保護しています。

### 地況・林況

南アルプスの山々は高い標高と大きな山容、全般になだらかな稜線が特徴です。

仙丈ヶ岳の山頂付近には三つのカール(圏谷)があり、高山植物が非常に豊富なことで知られています。

当保護林の林況はコメツガやトウヒ等の針葉樹の天然林が主体となっています。

ニホンジカによる高山植物の食害を防ぐため、馬の背ヒュッテ付近に防護柵を設置するなど、地域の関係者が協働し高山植物等の保護に向けた取組が行われています。

仙丈ヶ岳 (3,033m)

所在地  
長野県伊那市長谷



甲斐駒ヶ岳 (2,966m)

※自然保護のため、詳細な位置情報は掲載しておりません。

国有林野には、世界自然遺産を始めとする原生的な森林生態系を有する森林や、希少な野生生物の生育・生息の場となっている森林が多く残されています。

国有林野事業では、1915年(大正4年)以降、こうした貴重な森林を「保護林」として設定し、森林や野生生物等の状況変化に関する定期的なモニタリング調査を実施して、森林の厳格な保護・管理を行っています。



※詳細は、QRコードを読み込んでください。

お問い合わせ先：計画保全部計画課 ダイヤルイン：026-236-2612